



スギ花粉治療の決め手『舌下免疫療法』

～治療後の効果できめん 所長 今村 浩

「新型コロナ」とつらい花粉症のダブルパンチで、憂鬱な人もおられると思います。

そもそも花粉症は、スギやヒノキなどの花粉に対する抗体がある人が、再び花粉にさらされることでアレルギー反応を発現する状態を指します。ところが、花粉症を引き起こす原因となる抗原に持続的に少しずつさらしていると、やがて抗原に反応しなくなる現象（免疫寛容）が現れます。この免疫寛容の状態に誘導するアレルゲン免疫療法の一つ「舌下免疫療法」について、2021年3月号の通信でご紹介しました。スギ抗原の入った薬（1錠144円、3割負担で約40円）を舌の下に1分間溶かして保持し飲み込む治療法で、3年をめどに続けます。当院でこの治療を始めて3年目ですが、とっても効果がでています。その体験談をご紹介します。

① 50代女性：（治療前）眼のかゆみが強く、「眼を取って洗いたい」ほど辛かった。鼻水、鼻づまりで息ができず「ホースで鼻水を吸い取りたい」と思った。空気清浄機を枕元に置いて寝ていた。（治療3年目）ほとんど花粉症の薬を飲まなくても症状がなくなり楽になった。花見に行けるようになり、人生が変わった気がする。

② 20代女性：（治療前）眼のかゆみが強く、目薬をさしても効果が感じられず辛かった。鼻水、鼻づまりで息苦しくて不眠だった。目や口唇が腫れていた。

（治療1年目）薬の副作用で目や口唇が腫れ、花粉症のような軽い症状があったが、その時は舌下免疫療法を中止して花粉症の薬を内服し、治まったら再開を繰り返していた。そのうち副作用が起こらなくなり、症状が軽減した。舌下免疫療法をしながら、花粉症の薬を内服した。

（治療2年目）スギ花粉症の症状が軽減し、ひどい時のみ花粉症の薬を内服していた。

（治療3年目）スギ花粉症の症状がおさまり、花粉症の薬を飲まずに普通に生活でき、楽になった。春が憂鬱だったが今は憂鬱でなくなった。

お二人とも、ヒノキの花粉症もあり、花粉症の薬を最近飲み始めたものの以前のようなひどい症状はないとのことです。

この治療法は、スギ花粉シーズン中は治療を開始できず、シーズン終了後（6月ごろ）から開始します。お悩みの方がおられましたら、一度相談にお越しください。

<馬場宏敏（ばば ひろとし）医師のご紹介>



大分県の地域医療の現場で長らく働いていました。水曜と金曜の午前外来と訪問診療を担当します。住み慣れた地域で長く暮らし続けるために、「たまに入院、ほぼ在宅」をめざします。

<新型コロナワクチン4回目接種について>

●対象者

①60歳以上

②18歳以上60歳未満で基礎疾患を有する者や重症化リスクが高いと医師が認める者（慢性の呼吸器疾患、高血圧を含む心臓病、糖尿病、腎臓病、肝臓病、重度肥満など）

●3回目接種から5か月以上経過後

●5月下旬開始（予定）

当院での接種予約は大津市コールセンター（0570-002-092）か予約サイトでのみ予約ができます。

4月の太陽光発電量 1,373kwh

CO2削減量… 693Kg

杉の木の年間吸収量 約49本分